シンポジウム開催結果（講演･議論のポイント）

構成は3部からなり、まず、1）ゲノム合成分野の科学技術の急速な進展の紹介、次に、2）その社会への影響の紹介、最後に、3）パネルディスカッション（事例として、馬痘ウイルスの人工合成に関する今年 7 月のサイエンス誌記事）を行いました。このシンポジウムを開催したことで、以下2点を参加された研究者と共有しました。

･ゲノム合成技術が海外を中心に急速に進展していること

･基本的なスタンスとして、この生命科学の進展にブレーキをかけるべきではないが、研究目的が正当であり、リスク管理が適切に講じられていることが必要であること

これらは、野地プログラムで準備中の、ゲノム合成技術の社会への影響に関する調査報告に反映する予定です。

司会（左：木賀教授、右：田端PM補佐）

シンポジウム概説（野地PM）

パネルディカッションの様子

パネリスト（ゲノム合成時代の到来）
（左から、相澤准教授、野地PM、
木賀教授、末次准教授）

パネリスト（ゲノム合成技術の社会への影響）（左から、横井氏、隅蔵教授、
四ノ宮教授、右後ろ；田端PM補佐）